

## 2012年度事業報告

### 1. 将来構想第三期3カ年計画(2010年~2012年)の最終年として積極的な推進を行います。

#### 1) 第三もみじ作業所の事業運営と実践の充実を図ります。

事業運営の安定化に向けて、利用人数を増やすことに力を入れましたが、就労移行支援事業での企業就職と定着に実績をあげるほど定員が空き状態となってしまいました。B型と就労移行の定員の見直しを検討し、来年度より実施することします。

各授産グループとも高い工賃をめざし目標に向かって実績をあげましたが、特にパン、配食においては大量の注文に応えるためには職員の長期残業によることが多く、大きな課題となっています。こねこね工房(店)の運営は第一・第二もみじの当番も得ながら徐々に安定してきましたが、今後、家族の協力の復活やお店の運営委員会の発足など一層の改善策を検討しているところです。

#### 2) 5つ目のケアホームづくりに向けて広島市への土地貸与の要請等、引き続き取り組みます。

5つ目のケアホームを希望する家族会との懇談も重ねながら、広島市への土地貸与の要請行動を行いました。具体的な提示を受けるまでには至らず、広島市の土地も限られているということから国有地の照会もありました。借地ではなく、購入ということで、断念せざるを得ませんでした。引き続き、広島市への要請を具体的な構想をもって強めていくことを確認しました。

また、つばさを借りている大家さんから土地売却の打診もあり、引き続き検討課題となっています。

### 2. 第一・第二もみじ作業所の新たなグループ編成と、せんべいグループの円滑なスタートを図り、軌道に乗せます。

グループ編成はほぼ順調に行うことができましたが、せんべいグループは、火災の影響を大きく受け、設備の整備、開始の時期等が遅れる中、職員、仲間の頑張りです今年度内の商品化を実現することができました。

しかし、仲間への対応においては、今後とも一人一人の障害特性に配慮した丁寧な取り組みが求められます。

### 3. ケアホームの運営と体制の充実を図ります。

#### 1) 土・日の開所(365日開所)に向けて体制を整えます。

職員体制の拡充を図り、365日体制に向かう体制と職員の意識づくりに取り組みました。体制の拡大強化については、福祉職場全体の求人難から思うような人材確保ができませんでしたが、11月から毎週金曜日の泊も行き、365日開所に向けての一步を踏み出しました。

#### 2) つばさ、たんぼぼの欠員解消と移転問題に取り組みます。

たんぼぼの欠員を体験入所の受け入れに変更し、一定の成果を得ることができました。移転問題についても不動産屋や職員のつながりでの情報を得ながらあたっていきましたが、具体的に進めるまでには至りませんでした。また、つばさの大家さんの土地売却の打診もあり今後の検討課題となっています。

4. 高齢化に伴う課題をより明確にしつつ、準備を進めます。

Tさんの痙攣による緊急入院、Mさんの体調の異変による入院等利用者の医療面への緊急対応、併せてMさんのお母さんの急死をはじめ家族の高齢化への対応、仲間の高齢化に伴う実践の検討など、これまでになかった取り組み・対応が求められた1年でした。

今後の重点課題として具体化を図っていくこと求められています。

5. 職員の資質の向上と人材育成に取り組みます。総合的な研修システムを引き続き検討し、職員の資質の向上に取り組みます。

研修システムプロジェクトを立ち上げ、新入職員研修については年間カリキュラムを作り実施することができました。中堅、管理職について今後の課題となりましたが、システムづくりの一步を踏み出すことができました。

6. 拡大する事業にふさわしい組織機構づくりに取り組みます。

検討は行いましたが、具体化を図るまでには至りませんでした。

7. 「障害のある人が安心して暮らせる社会づくり」にむけて引き続き、他機関と連携しながら運動・実践を大切に取り組みます。

地域福祉推進委員会を中心に、きょうされん、広障連、HDF、移動支援事業者連絡会などと連携し（必要に応じて加盟している）、運動の一翼を担ってきました。また、全国障害者問題研究会の全国大会（広島大会）にも福社会全体で、実行委員会、当日の要員等に積極的に参加し、成功にむけて大きく貢献しました。

8. 役職員・関係者の団結と協同で、火災被害からの速やかな復興に取り組みます。

多くの関係者の努力、また多くの支援者のおかげで速やかな復旧を遂げることができました。本当に多くの人に支えられてもみじがあることを実感しました。

## 【もみじ福社会のめざすものの実現に向けて】

### I. 利用者の生きる力の獲得、生活の質の向上にむけて

#### 1. 豊かな労働・日中活動づくり

##### ①利用者の障害や発達段階に見合った作業種目・作業行程および活動内容の研究開発

\*労働部での検討やアンケートを下に、グループの再編成を行いました。特に新たに立ち上がったせんべいグループは一人ひとりにあった作業工程に自助具等を使って生産活動を高める努力を行いました。一方、障害特性の理解や人権尊重の姿勢には課題が見られ、福社会全体で認識を深め改善していく必要があります。

例年行っていた白石先生を招いてのケース検討会議は実施できませんでした。

##### ②賃金アップをめざし、また、働くことの意味や本人のがんばりが反映できるような適切な給与体系の研究

\*一度落ち込んだ工賃回復への努力がみられ、年度後半にはさをり織りの展示会やカレンダー販売によって、前年度並みの工賃まで引き上げられました。

また、第一・第二もみじ作業所における全体行事を除く生活活動を給与の対象とすべきかどうかについても労働部を中心に検討が行われ、労働として給与の対象としてとらえるということ全体で確認しました。

**③看護師や作業療法士と連携した利用者の健康推進、及び重度障害を抱える利用者の二次障害予防のための研究・実践**

\*健康推進部を中心に、必要な仲間のバイタルチェックや全員の体重測定など、日常の健康状態の把握や指導を引き続き行うとともに、成人病対策として月1回スポーツ指導員の指導を得ながらプールの活動を行い、二次障害予防では山田先生の指導を得ながら車いすの姿勢改善や個々の相談援助を行いました。

**④自立心や自立意識を育てていく立場に立った自治会活動の充実**

\*定例会議や所長交渉、生活委員、広報委員などの活動、虹の会の活動参加など、担当職員の支援を受けながら取り組みの充実を図りました。  
自治会の要求に応じて、工賃の支給日の改善を図りました。

**⑤社会経験を広げていく場として、また、レクレーションの場としての各種行事の実施**

\*生活部を中心に仲間が主体者として取り組むことを大切にしつつ、活発に行ってきました。ややもすると職員中心になりがちなことにつけていきたいと思えます。

**⑥文化活動・クラブ活動の定着・充実**

\*年7回のクラブの取り組みをボランティアの力も借りながら取り組みました。  
国鉄広島ナッパーズとジョイントで東日本震災支援の「絆コンサート」をもみじ福祉会全体で取り組み大成功に終えることができ、65万円を超える募金を送ることができました。

**⑦地域の要求と連携しつつ、新たな日中活動の場づくりの取り組み。**

\*1) 高い工賃をめざす取り組み、2) 地域貢献については、第3もみじ作業所の配食の拡大やこねこね工房の集客アップに向けての取り組みなどを企画しましたが、まだまだ大きな成果を上げるまでには至らず、今後とも継続して検討する必要があります。第一・第二もみじ作業所のせんべいの商品化も年内に実現し、着実な進展を図ることができました。3) 待機者、新卒者の受け入れについては、将来構想検討委員会でも検討は重ねてきましたが、引き続きの課題となりました。

**2. 豊かな生活・暮らしの場づくり**

**①「合築ホーム夢トピア」の運営の安定と支援の充実**

\*豊かな生活の場の保障として努力していますが、一層の支援者の確保と充実が求められています。特に今年度は医療機関の利用が増大し、ますます利用者の高齢化・重度化に対する取り組みや医療との連携が求められました。

Mさんの思いもよらない怪我、入院、看取りと、沢山の課題を突きつけられたこの経験を、今後の高齢化問題と生活支援に生かしていきたいと思えます。

また、Mさんの母親の急死をはじめ、家族介護の低下に伴う取り組みも緊急の課題として取り組んで行くことが求められました。11月より毎週金曜日の宿泊も実施し、土・日開所に向けて一歩踏み出しましたが、さらに安心できる生活の場とできるような体制の充実が求められています。

**②「ケアホームたんぼぼ」「ケアホームつばさ」の移転の検討、運営の安定と支援の充実**

\*たんぼぼ、つばさの職員を3人体制とし、つばさにおいては土・日開所の実現を図りました。  
また、たんぼぼの欠員については体験入所事業として、5人の仲間を受け入れて、当面の欠

員の解消を図りました。

移転問題は、つばさの大家さんから土地の売却を示唆され、将来構想検討委員会等で検討をしてきました。結論はまだ出ていませんが、5つ目のケアホームづくりと併せて今後も検討をしていきます。

### ③「ドリームハウス」の円滑なスタートと運営の安定、支援の充実

\* 食事作りの取り組みも定着し、余暇活動の取り組みを新たに増やし、豊かな生活の場として支援の充実に向けて取り組みを拡げました。また、ショートステイ利用の要望も積極的に受け入れました。

### ④「もみじヘルプステーション夢トピア」、「障害者生活支援センターめーぷる」による生活支援の充実

\* ヘルプステーションの現地指導に於いて特別加算や移動支援などの問題点について指摘を受け、それへの対応や課題の解消にむけて取り組みました。11月より、土・日開所に向けて毎週金曜日のホーム開所を実施し生活支援の充実を図りました。人材確保・育成の取り組みについては、必要な人員の確保にはいたりませんでした。

\* 本年度も積極的に相談援助を実施してきました。サービス利用計画の実施が制度化されたことや家族・本人の高齢化の進展に伴い、ますます「めーぷる」との連携が求められています。

### ⑤「もみじの家」の有効活用・自立訓練事業など

\* 今年度も生活自立訓練事業の実施に有効に活用されました  
生活自立訓練については、利用者から非常に高い評価を頂いています。

## II. 地域に根ざし、地域の障害者・関係者の福祉的ニーズに応える法人づくり

### 1. 地域に根ざした作業所・ホームづくり

#### ①広報活動の充実

- ・もみじ福祉会ニュース「がんばろうや」の内容の充実ときめ細やかな地域配布への取り組み
  - \* 今年度は年3回の発行となりましたが、多彩な記事づくりで内容の充実に努め、また吉島地域6町内会への配布にあたっては地域との関係維持の大切な機会としても位置づけ、各町内会長を訪問して町内への回覧依頼を行いました。観音地域においても今後配布していきたいと思えます
- ・ウェブサイトの一層の充実
  - \* 火災発生のため、ウェブサイトの更新は十分にできませんでした。今後タイムリーな紹介をするためにも更新の頻度をあげていきたいと思えます。

#### ②もみじ福祉会のもつ施設・設備・情報・人材の地域における福祉的ニーズへの開放

\* 今年度も社会福祉士、介護福祉士の資格取得のための実習、教員免許取得実習、刑務官等の実習、地域小学校との交流会、小・中学校からの職場体験実習やボランティア体験学習、企業のボランティア体験実習など、実習依頼は積極的に受け入れてきました。また、やさしさ発見プログラムの小・中学校の車いす体験学習や2級ヘルパー養成講座、ガイドヘルパー養成講座の講師依頼などにも積極的に応え、もみじ福祉会の社会資源としての役割を果たすことができました。

### ③地域・町内会行事等への参加や共同企画の推進

・作業所まつり、夢フェスティバルの実施など

\*第一・第二もみじ作業所では町内の行事（飯ごう炊爨、とんど祭り、盆踊りなど）に積極的に参加し、要請に応じて物も人も協力しました。

観音地域の夢トピア、ドリームハウス、第三もみじ作業所でも、とんど祭りや盆踊り、秋祭りと地域行事に積極的に参加し、夢フェスティバルも女性会や多くの地域の支援と参加を得ることができ、恒例の行事となりました。また、今年度も西区社協主催のもちつき大会の会場として夢トピアを提供し、社会資源としての地域貢献にも力を入れました。

## 2. 地域の障害者・家族への支援と諸要求実現に向けて

### ①地域の諸団体との協力・共同の推進、関係機関への働きかけ、

\*きょうされんの加盟団体として、広障連やHDF、重度医療無料化連絡会、移動支援事業者連絡会などと連携して、学習会や運動に積極的に参加し、最新の情報の提供にも努めました。また、今年度広島で開催された全障研全国大会の実行委員会、事務局にも多数参加し、当日の運営にも多数の要員を派遣して大会成功の一翼を担いました。

### ②「障害者生活支援センターめーぶる」の障害者自立支援活動の推進

\*障害種別や年齢層も多様で、相談内容も就労支援、一人暮らし、生活や教育支援の問題などいろいろな相談や願いに応え、また特定相談も含めると、相談ケースは7500件と相談機関として大きな役割を果たしています。また広島市の自立支援協議会やコーディネーター会議、発達障害者検討委員会・特別支援学校の地域ネットワーク会議などの関係機関との連携にも引き続き役割を果たしてきました。「ものづくり&夢づくり」「いきいき教室」「自立の会」「機関紙めーぶる」の定期的発行などめーぶる独自の活動にも力を入れ、充実した取り組みが行われました。

### ③「もみじヘルプステーション夢トピア」による在宅障害者への介護サービスの拡充

\*居宅介護・移動支援のニーズは、外部はもちろん、もみじ作業所利用者の家族の高齢化や介護力の低下によって、年々増え続けています。ヘルパーの人材難から断るケースが続いており、人材確保が継続課題となっています。

また、実地指導による移動支援の「起点・終点」の問題や「中抜き」問題、医療問題等については、HDFや「移動支援事業所連絡会」に参加して改善を求める運動に積極的に関わり、障害のある人の社会参加の拡大、充実に努めました。

### ④「短期入所事業」の実施による在宅障害者・家族へのサービスの拡充

\*体験利用よりも家族の入院等による緊急利用の要望が増え、他事業所との連携をとりながらの受け入れがますます増えてきました。そのため今年度もやむを得なくお断りするケースが出てきました。契約状況の確認と今後の検討が再度浮上してきています。

### ⑤訪問介護員養成研修事業や福祉講座等の継続による福祉人材の育成や貢献

\*今年度はガイドヘルパー養成講座を1回開催しましたが、必要な人材確保にはつながりませんでした。

### ⑥障害をもった児童・生徒のニーズの把握と支援体制づくり

・広島県立広島特別支援学校、広島県立北特別支援学校の放課後対策事業の継続、充実

\*夢トピアでの「いきいき教室」の充実をはかるとともに、今年度も広島県立広島特別支援学校と広島県立北特別支援学校の2校の放課後対策事業を受託し、広島北特別支援学校の利用者は前年度より増えました。また、広島県立特別支援学校では、医療的ケアの常時必要な生徒の希望があり、広島市と連携をとりながら対応をし、結果的には要望を取り下げられましたが、生徒の状況から今後も要望が出されることは予測され、今後の検討課題となるように思います。

引き続き、「ものづくり・音づくり・身体作り」の3本柱の実践を大切にして取り組みを充実させてきました。

### ⑦「夢トピア」の在宅福祉への発信基地化と地域作りを目指した取り組み

\*短期入所事業、相談支援センター、ヘルパー派遣事業がフル回転し、在宅福祉の拠点としての重要な役割を果たしてきました。引き続き、ますますの利用増が予測される中、更にそれぞれの事業の拡充が求められてきています。

## Ⅲ. 人材育成・職員の資質の向上

### ①「もみじ福祉会のめざすもの」学習とそれに沿った実践の追求

\*新入職員のガイダンスまた、初任者研修のプログラムに「めざすもの」の学習を取り入れています。

### ②内部研修体制の整備・充実と外部研修会の効果的な活用

\*全体学習会では情勢学習や全職員が順番で行っているケース報告を大切にしながら進めてきました。

また、毎回の研修アンケートをもとに、研修内容や運営の充実に努めましたが、アンケートの回収率が低下しており、積極的な研修参加が問われています。

・初任者、中堅、主任、管理者研修の創設と充実

\*今年度は内部研修の充実を図るために、「研修システム検討会議」にて初任者研修をカリキュラム化し、カリキュラム通り実施することができました。

しかし、初任者研修以外はカリキュラム化までに至りませんでした。中堅職員の外部実習はアンケートをとり希望を聞くまでにとどまり、来年度の実施に引き継がれました。

・障害者の特性や発達についての知識の修得

\*毎年恒例の白石先生を招いてのケース検討会議が実施できず、不十分なままとなってしまいました。

・作業行程の組織、仕事おこし、製品開発などに関する知識・技能の修得

\*火災による大幅な遅れがあったにもかかわらず、せんべいグループの立ち上げと担当職員の努力によって年度内の商品化実現を果たすことができたことは評価できます。引き続き仲間一人ひとりにあった作業づくりへの工夫が課題です。

きょうされん研修会や県・市の就労振興センターの研修に参加し、知識、技能の習得に努めました。

・健康づくり・自立支援・生活支援・相談活動に関わる研修

\*タイムリーな情勢報告や学習会の実施に心掛けました。

生活支援においても研修報告や支援の質を高めるための学習会等を行いました。

・福祉の制度や政策、運動についての知識・情報の学習と政策能力の形成

- \*地域福祉推進委員会を中心に、きょうされんや広障連、障害者自立支援法の基本合意の完全実現をめざす会、HDF、移動支援事業者連絡会等の情報提供を適宜行い、また各団体との連携を図りながら取り組んできました。
- ・施設や法人運営に関する知識・情報・ノウハウの修得と政策能力の形成
- \*広島市、きょうされん、広島県知的障害者福祉協会、広島県相談支援連絡会等の研修会に参加して、できるだけ関係者への情報の提供と共有化を図りながら政策能力を高めるよう努めています。

### ③協力専門家の組織。

- \*めーぷるにおいては専門家の組織が行われ、「いきいき教室」「ものづくりゆめづくり教室」など、多くの専門家の協力によって毎回充実した取り組みが行われました。
- その他、評議員会・理事会をはじめ、研究・研修・文化行事などの活動を通しての専門家との協力関係は一定の広がりをもっていますが、組織化については引き続き今後の課題となっています。

### ④研究・運動団体との連携を通しての研修

- \*きょうされんの研修会を軸にして、全障研や広障連の会議や研修等に積極的に参画しました。

### ⑤職員の組織集団としての質・力量の向上

- \*職員会議、研修等を大切にしながら、質、力量の向上に努めてきましたが、組織の拡大が進むもみじ福祉会として、職場づくりはますます大切な課題です。研修システムや管理運営システムの再構築をはじめ、事業拡大にふさわしい運営機構づくりの必要性について監事からも指摘を頂いています。今後の大切な検討課題として引き続き研究・検討します。
- 各作業グループとの連絡や主任の負担軽減を目的に、グループリーダー制を立ち上げましたが、組織としての役割や機能を充分発揮するには至っておらず、位置づけの再確認と活性化をめざします。

## VI 財政基盤の強化

### ①障害者自立支援法移行に伴う財政対策の検討と展望づくり

- ・各事業の開所日数の増、契約者の増等の方針の当面の継続
- \*自治会（ひまわり会）からの所長交渉において土曜日開所の廃止が要望されていますが、今年度実施した家族会アンケートでは正反対の結果となりました。これらの意向や状況を踏まえつつ、生活支援の人的体制や全体の支援体制の充実度を勘案しながら、引き続き検討をしていきたいと思えます。
- ・適切で効率的な事業の組み立ての検討
- \*引き続き諸加算がとれるような経営努力をし、一定の成果を得ています。

### ②夢トピアの財政運営上の点検と確実な見通しづくり

- ・もみじヘルパーステーション夢トピアの健全かつ活発な運営
- \*人材難等により支援を断らざるを得ない状況は解消されず、今後の人材確保にむけては適切な給与保障を含めた仕事の魅力づくりが必要となっています。
- 実地指導による「起点、終点」が家でない場合や中抜きの指導によって返戻事案もあり、支援総時間数は前年より減少しました。特別加算の継続により、繰越金を得ることはできましたが、前年度より大きく減収してしまいました。今後ますます厳しくなることが予測されま

す。

- ・地域交流スペースの有効活用、など

\*今年度は外部利用が大きく減少し、今後の地域交流スペースの活用方法について検討が求められています。

### ③将来構想第3期計画向けの財政計画づくり

\*夢づくり応援団、後援会の活動が停滞気味になっており、将来構想推進のためにも組織再編や活動の活発化が求められています

### ④支出削減と収益増への取り組み

- ・支出の節減に向けての普段の点検・努力

\*諸契約の見直しや機械等の買い替え期などに経費節約対策をはかりました。

- ・家族会、自治会、後援会との協力共同の取り組み

\*今年度も作業所まつりの取り組みを家族会や地域の協力を得て実行委員会形式で行い、財政活動に力を寄せていただきました。

今年度は、作業所まつり、夢フェスタの収益のほとんどを昨年度に引き続き東日本震災支援に寄附させて頂きました。

- ・諸助成金の有効な活用

\*諸助成金の申請を積極的に行いました。

主に送迎車4台の更新等に多くの助成をいただきました。

### ⑤事業拡大に応える事務体制の整備

\*火災より大きな痛手を被った事務機能の停止・停滞は、ほぼ以前の状態に戻りつつありますが、まだまだ大変な状況にあります。非常事態に備えた危機管理やデータ保存に関する教訓を、今後生かしていきたいと思えます。事業拡大に伴う事務体制の整備等、引き続き改善を図っていく必要があります。

## V. もみじ福祉会運営組織及び職員の労働条件の整備

### 1. 運営組織の整備

#### ①理事会・評議員会の一層の活性化と充実

\*議事運営では引き続き議案の整理やわかりやすい資料提供に努めました。一層の活性化のためにも、引き続き日常の連絡・情報提供に努めるとともに、今年度、監査指導からも指摘を受けた欠席を少なくする工夫が求められています。

#### ②家族会との連携強化

\*所長が役員会や定例会へ参加し、連絡事項・情勢学習の実施をはじめ、意向の聴取や協議を行ってきました。

#### ③管理運営会議及び各運営会議(基幹会議)の体制、任務、分掌及び連携のあり方の検討、改善

\*管理運営会議をはじめ、各運営会議、諸会議ともほぼ定例化されています。今後ますます事業拡大に伴う会議の整理や連携のあり方の検討が問われてくると思われます。

#### ④管理的職員の任務と分掌の明確化

\*年々増え続ける事業の多様化に伴いますます管理職の任務分掌の明確化や力量



アップが求められており、管理運営システムの研究や諸基本会議の持ち方も含め、再構築していく必要があります。

**⑤協力専門家との連携体制の強化・充実**

- \*全体としては拡充することはできませんでした。
- \*各事業所に於いて必要な専門家との協力をどう得るかの検討も必要になってきていると思われまます。

**⑥人材の確保と適性配置**

- \*人材確保については、職安活用や集団面接会等への積極的な参加など、鋭意達成に努力してきました。しかし、新卒の求人についてはほとんどが準職員の募集ということで給与保障の低位化などからか、残念ながら人材確保の厳しさに直面しました。今後、引き続き運動・事業両面からの取り組みが求められています。
- また、事業ごとの給与見直し等の検討や適切な配置の工夫は引き続き検討していきます。

**2. 労働条件の整備**

**①多様化する実践及び利用者の要求に応えうる処遇の追求と、働きやすい労働条件づくりの両立についての検討継続。**

- \*職員アンケートにおける要望等について、管理運営会議や人事委員会にて鋭意検討を行い、以下の点について改善を図りました

- 昇給、昇格の実施                      ○駐車違反防止互助会費の減額(半額に)
- 準職員の処遇の改善(時給 20 円アップ、住居手当の適用) 、一部正職化
- \*但し、住居手当限度額の減額 24000 円→21000 円。
- 処遇改善手当の活用による給与アップ      ○全職員の正職員化の検討

**②労組も含めた、組織のあり方や労働条件についての検討。**

- \*4月23日に労使協議を持ち、上記①について協議、合意を得ました。

## 財 産 目 録

平成25年 3月31日 現在

第6号様式  
(単位:円)

資 産 ・ 負 債 の 内 訳	金 額
<b>I 資産の部</b>	
1. 流動資産	
現金預金	300,350,286
商品・製品	1,962,033
原材料	822,912
未収金	63,633,646
前払金	217,579
流動資産合計	366,986,456
2. 固定資産	
(1) 基本財産	
建物	538,527,633
基本財産特定預金	1,000,000
基本財産合計	539,527,633
(2) その他の固定資産	
建物	448,215
構築物	2,609,995
機械及び装置	1,586,033
車両運搬具	23,933,476
器具及び備品	31,100,795
権利	372,008
差入保証金	296,000
ソフトウェア	366,032
水道施設負担金	1,356,250
運営資金積立預金	13,100,000
修繕積立預金	13,000,000
工賃変動積立預金	2,202,975
設備等整備積立預金	3,180,000
建設積立預金	75,000,000
改装等積立預金	240,000
県互助会退職金預け金	13,467,100
預託金	173,440
その他の固定資産合計	182,432,319
固定資産合計	721,959,952
資産合計	1,088,946,408
<b>II 負債の部</b>	
1. 流動負債	
未払金	3,378,147
預り金	765,758
前受金	2,141
仮受金	76,440
流動負債合計	4,222,486
2. 固定負債	
設備資金借入金	46,750,000
退職給与引当金	13,467,100
固定負債合計	60,217,100
負債合計	64,439,586
差引純資産	1,024,506,822

## 貸借対照表

平成25年 3月31日現在

第5号様式  
(単位: 円)

資 産 の 部				負 債 の 部			
科 目	当年度末	前年度末	増 減	科 目	当年度末	前年度末	増 減
流動資産	366,986,456	359,011,530	7,974,926	流動負債	4,222,486	15,290,011	-11,067,525
現金預金	300,350,286	275,314,318	25,035,968	未払金	3,378,147	14,996,133	-11,617,986
商品・製品	1,962,033	1,631,336	330,697	預り金	765,758	23,820	741,938
原材料	822,912	742,614	80,298	前受金	2,141		2,141
未収金	63,633,646	81,323,262	-17,689,616	仮受金	76,440	270,058	-193,618
前払金	217,579		217,579	固定負債	60,217,100	66,794,500	-6,577,400
固定資産	721,959,952	715,402,244	6,557,708	設備資金	46,750,000	54,500,000	-7,750,000
基本財産	539,527,633	554,983,631	-15,455,998	借入金	13,467,100	12,294,500	1,172,600
建物	538,527,633	553,983,631	-15,455,998	退職給与引当金			
特定財産	1,000,000	1,000,000		負債の部合計	64,439,586	82,084,511	-17,644,925
その他資産	182,432,319	160,418,613	22,013,706	純資産の部			
建物	448,215	532,863	-84,648	基本金	181,338,081	181,338,081	
構築物	2,609,995	3,024,553	-414,558	基本金	181,338,081	181,338,081	
機械及び装置	1,586,033	1,889,068	-303,035	国庫補助金等 特別積立金	261,011,853	276,986,364	-15,974,511
車両運搬具	23,933,476	15,864,580	8,068,896	国庫補助金等 特別積立金	261,011,853	276,986,364	-15,974,511
器具及び備品	31,100,795	37,015,266	-5,914,471	その他の積立金	106,722,975	86,932,534	19,790,441
権利	372,008	372,008		建設積立金	75,000,000	60,000,000	15,000,000
差入保証金	296,000	320,000	-24,000	運営資金積立金	13,100,000	13,100,000	
ソフトウェア	366,032	535,291	-169,259	工賃変動積立金	2,202,975	2,412,534	-209,559
水道施設負担金	1,356,250	1,461,250	-105,000	設備等整備積立金	3,180,000	3,180,000	
運営資金積立預金	13,100,000	13,100,000		修繕積立金	13,000,000	8,000,000	5,000,000
修繕積立預金	13,000,000	8,000,000	5,000,000	改装等積立金	240,000	240,000	
工賃変動積立預金	2,202,975	2,412,534	-209,559	次期繰越活動 収支差額	475,433,913	447,072,284	28,361,629
設備等整備積立預金	3,180,000	3,180,000		次期繰越活動 収支差額 (うち当期活動 収支差額)	475,433,913	447,072,284	28,361,629
建設積立 預金	75,000,000	60,000,000	15,000,000		48,152,070	45,455,266	2,696,804
改装等積立 預金	240,000	240,000					
県互助会 退職金預け 預託金	13,467,100	12,294,500	1,172,600	純資産の部合計	1,024,506,822	992,329,263	32,177,559
	173,440	176,700	-3,260	負債及び純資産 の部合計	1,088,946,408	1,074,413,774	14,532,634
資産の部合計	1,088,946,408	1,074,413,774	14,532,634				

脚注

1. 受取手形割引高及び裏書譲渡高 無し
2. 減価償却費の累計額 345,497,012
3. 徴収不能引当金の額 無し

### 資金収支計算書

(自)平成24年 4月 1日 (至)平成25年 3月31日

第1号様式  
(単位:円)

		勘定科目	予算	決算	差異
就労支援事業活動による収支	収入	就労支援事業収入	40,942,696	40,119,643	823,053
		経理区分間繰入金収入		131,010	-131,010
		就労支援事業収入計(1)	40,942,696	40,250,653	692,043
	支出	就労支援事業支出	40,942,696	40,526,531	416,165
		経理区分間繰入金支出		131,010	-131,010
		就労支援事業支出計(2)	40,942,696	40,657,541	285,155
		就労支援事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		-406,888	406,888
福祉事業活動による収支	収入	自立支援費等収入	371,225,607	370,176,277	1,049,330
		利用料収入	32,743,190	32,130,523	612,667
		補助事業等収入	16,817,089	16,498,088	319,001
		経常経費補助金収入	4,150,546	4,073,686	76,860
		その他の事業収入	44,746,132	44,386,420	359,712
		寄附金収入	10,978,680	10,857,899	120,781
		雑収入	7,564,275	7,334,718	229,557
		借入金利息補助金収入	476,303	341,022	135,281
		受取利息配当金収入	110,620	52,710	57,910
		会計単位間繰入金収入	5,000,000	5,000,000	
		経理区分間繰入金収入	42,600,000	42,600,000	
		福祉事業収入計(4)	536,412,442	533,451,343	2,961,099
	支出	人件費支出	364,227,704	361,489,963	2,737,741
		事務費支出	53,672,588	52,084,383	1,588,205
		事業費支出	25,419,200	24,379,231	1,039,969
		借入金利息支出	984,578	926,297	58,281
		会計単位間繰入金支出	5,000,000	5,000,000	
		経理区分間繰入金支出	42,600,000	42,600,000	
		福祉事業支出計(5)	491,904,070	486,479,874	5,424,196
		福祉事業活動資金収支差額(6)=(4)-(5)	44,508,372	46,971,469	-2,463,097
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	11,626,450	11,626,450	
		施設整備等寄附金収入	43,000	42,436	564
		固定資産売却収入	300,000	289,210	10,790
	施設整備等収入計(7)	11,969,450	11,958,096	11,354	
	支出	固定資産取得支出	27,944,005	27,944,005	
		施設整備等支出計(8)	27,944,005	27,944,005	
		施設整備等資金収支差額(9)=(7)-(8)	-15,974,555	-15,985,909	11,354
財務活動による収支	収入	借入金元金償還補助金収入	1,617,000	1,617,000	
		積立預金取崩収入	286,860	286,860	
		その他の収入	53,020,520	53,064,400	-43,880
		財務収入計(10)	54,924,380	54,968,260	-43,880
	支出	借入金元金償還金支出	7,750,040	7,750,000	40
		積立預金積立支出	20,000,000	20,077,301	-77,301
		その他の支出	39,209,295	39,088,175	121,120
		財務支出計(11)	66,959,335	66,915,476	43,859
		財務活動資金収支差額(12)=(10)-(11)	-12,034,955	-11,947,216	-87,739
		予備費(13)			
		当期資金収支差額合計(14)=(3)+(6)+(9)+(12)-(13)	16,498,862	18,631,456	-2,132,594
		前期末支払資金残高(15)	316,711,595	341,347,569	-24,635,974
		当期末支払資金残高(14)+(15)	333,210,457	359,979,025	-26,768,568

### 事業活動収支計算書

(自) 平成24年 4月 1日 (至) 平成25年 3月31日

第3号様式

(単位: 円)

勘定科目		本年度決算	前年度決算	増減
就労支援事業活動収支の部	収入			
	就労支援事業収入	40,119,643	35,441,201	4,678,442
	経理区分間繰入金収入	131,010	14,295,342	-14,164,332
	就労支援事業活動収入計(1)	40,250,653	49,736,543	-9,485,890
	支出			
	就労支援事業販売原価	32,948,806	27,307,918	5,640,888
	販売費及び一般管理費	7,166,730	6,096,605	1,070,125
	経理区分間繰入金支出	131,010	14,295,342	-14,164,332
	就労支援事業活動支出計(2)	40,246,546	47,699,865	-7,453,319
	就労支援事業活動収支差額(3)=(1)-(2)	4,107	2,036,678	-2,032,571
福祉事業活動収支の部	収入			
	自立支援費等収入	370,176,277	360,025,490	10,150,787
	利用料収入	32,130,523	34,585,660	-2,455,137
	補助事業等収入	16,498,088	20,813,089	-4,315,001
	経常経費補助金収入	4,073,686	2,373,938	1,699,748
	寄附金収入	10,857,899	9,595,461	1,262,438
	雑収入	7,334,718	6,329,662	1,005,056
	その他の事業収入	44,386,420	43,681,224	705,196
	借入金元金償還補助金収入	1,617,000	1,617,000	
	引当金戻入	1,064,800	411,400	653,400
	国庫補助金等特別積立金取崩額	21,930,007	20,037,527	1,892,480
	福祉事業活動収入計(4)	510,069,418	499,470,451	10,598,967
	支出			
	人件費支出	361,489,963	337,595,527	23,894,436
	事務費支出	52,084,383	49,738,220	2,346,163
	事業費支出	24,379,231	28,160,876	-3,781,645
	減価償却費	41,857,135	38,866,798	2,990,337
引当金繰入	2,237,400	2,167,000	70,400	
福祉事業活動支出計(5)	482,048,112	456,528,421	25,519,691	
福祉事業活動収支差額(6)=(4)-(5)	28,021,306	42,942,030	-14,920,724	
事業活動外収支の部	収入			
	借入金利息補助金収入	341,022	472,010	-130,988
	受取利息配当金収入	52,710	73,587	-20,877
	会計単位間繰入金収入	5,000,000	165,983,896	-160,983,896
	経理区分間繰入金収入	42,600,000	51,320,152	-8,720,152
	事業活動外収入計(7)	47,993,732	217,849,645	-169,855,913
	支出			
	借入金利息支出	926,297	1,140,249	-213,952
	会計単位間繰入金支出	5,000,000	165,983,896	-160,983,896
	経理区分間繰入金支出	42,600,000	51,320,152	-8,720,152
事業活動外支出計(8)	48,526,297	218,444,297	-169,918,000	
事業活動外収支差額(9)=(7)-(8)	-532,565	-594,652	62,087	
経常収支差額(10)=(3)+(6)+(9)	27,492,848	44,384,056	-16,891,208	
特別収支の部	収入			
	施設整備等補助金収入	11,626,450	18,844,000	-7,217,550
	施設整備等寄附金収入	42,436	289,262	-246,826
	固定資産売却益(売却収入)	289,210		289,210
	国庫補助金等特別積立金取崩額	44,481	114,617,339	-114,572,858
	その他の特別収入	51,914,280	35,750	51,878,530
	特別収入計(11)	63,916,857	133,786,351	-69,869,494
	支出			
	基本金組入額		289,262	-289,262
	国庫補助金等特別積立金積立額	5,999,977	132,425,879	-126,425,902
	固定資産売却損・処分損(売却原価)	464,943		464,943
	その他の特別損失	36,792,715		36,792,715
特別支出計(12)	43,257,635	132,715,141	-89,457,506	
特別収支差額(13)=(11)-(12)	20,659,222	1,071,210	19,588,012	
当期活動収支差額(14)=(10)+(13)	48,152,070	45,455,266	2,696,804	
繰越活動収支差額の部	前期繰越活動収支差額(15)	447,072,284	423,220,048	23,852,236
	当期末繰越活動収支差額(16)=(14)+(15)	495,224,354	468,675,314	26,549,040
	基本金取崩額(17)			
	基本金組入額(18)			
	その他の積立金取崩額(19)	286,860	506,970	-220,110
	その他の積立金積立額(20)	20,077,301	22,110,000	-2,032,699
次期繰越活動収支差額(21)=(16)+(17)-(18)+(19)-(20)	475,433,913	447,072,284	28,361,629	

# 監査報告書

平成 25年 5月 24日

社会福祉法人 もみじ福祉会  
理事長 浜崎 勝 様  
(所轄庁、評議員会)

監事 白銀 徹三



監事 堀田 稔



社会福祉法第 40 条並びに社会福祉法人もみじ福祉会定款第 12 条及び監事監査実施規程第 7 条に基づき、下記のとおり監査結果を報告します。

### 記

- |   |       |                |   |
|---|-------|----------------|---|
| 1 | 監査日   | 会計監査           | 平成 25年 5月 24日 (金)   |
|   |       | 業務監査           | 平成 25年 5月 22日 (水)   |
| 2 | 監査の種別 | 決算監査           |   |
| 3 | 監査実施者 | 会計監査           | 白銀 徹三   |
|   |       | 業務監査           | 堀田 稔  |
| 4 | 監査の内容 | 会計監査           | チェックリストを基に財産目録、貸借対当表(小口現金を含む)の残高確認、銀行の通帳の残高証明書との突き合わせ、貸借対当表、事業活動収支計算書、資金収支計算書の一致並びに事項の監査。   |
|   |       | 業務監査           | チェックリストを基に平成24年度事業計画書と平成25年度事業報告書(案)、所定標準及び関係書類と比較点検し、法人運搬運賃及び事業実施状況等に監査した。   |
| 5 | 監査意見  | 会計監査           | 昨年指摘した現金出納帳については、入金受付簿が現金出納帳兼用に改訂され現金出納終了後の残高と帳簿残高が照合されており適正である。又預り入金の簿籍に現金の管理は、現金勘定を用いて貸借対当表に月末現金残高を表示する所改善を仰ぐ。その結果経理規程第30条の月次試算表に表示できるように適正である。 |
|   |       | 業務監査           | 平成25年3月に実施された広島市監査指導案、案内指導等の指導事項について改善措置がなされたことあり、適正に運営されている。おまじの運営については改善が必要なこと。法人運営について付新監査の検討と併せて取り組む必要がある。                                    |
| 6 | 添付資料  | 監事監査チェックリストの写し |   |

(注) 社会福祉法第 59 条の規定に基づき毎年度 6 月末までに所轄庁に提出する社会福祉法人現況報告書に、理事長あての監査報告書の写し及び監事監査チェックリストの写しを添付している場合は、所轄庁あての報告は省略して差し支えない。